

中心市街地拠点整備事業計画(案)説明会 主な質疑内容(抜粋)

(開催日)9月19日文化センター、10月2日桜井公民館、10月4日西部公民館、11月22日北部公民館

項目	質問内容	市の回答
事業計画	他に例の無い先進的なものとして欲しい。	日本ではICTを駆使した図書館の事例がほとんど無く、実験的な小さな取り組み程度で、大きくやっている所は無い。時間は掛かるが、今から準備を進めオープン時には、様々な電子情報の充実した、先進的な図書館にしていきたい。あえて図書情報館と呼び、紙の本と日本に事例の無い電子情報との抱き合わせによる、充実した施設を造っていくので、相当注目される拠点に成るという気がしている。 計画敷地は目立つ安城の一等地だと思っているので、建物の外観にも少しお金を掛けて、これが安城のまちの拠点施設か、結構がんばったと言われるような特徴のある外観に仕上げしていきたい。
事業計画	「環境首都・安城」に相応しく、低木や芝生広場等を充実させた方が良い。	安城市は環境首都を表明している。拠点施設には広場と公園もあるので、当然、緑化等を念頭において、植樹等も考えていく。また施設では、太陽光や雨水の利用等による自然エネルギーの活用、あるいは施設の長寿命化や環境負荷軽減に配慮した省エネルギー機器なども検討し、環境首都を体現するような施設づくりを進めたい。
事業計画	市議会は、本事業計画(案)に対し、どのような意見を申し出たのか？	市議会としては、中心市街地の賑わいの創出とか活性化、それが確実に遂行できるようにという部分と、後は拠点施設が安城市民全体が誇れるランドマーク性を持った施設にしなければならない。そういった思いの中で、主に6カテゴリー31項目に亘って提言をしている。その中で、主な内容としては、子育て支援とか介護予防、そして、それを踏まえた上で健康支援機能を公共施設に導入することを提言している。また、民間施設においては、この地域だけでなく他市からも人が足を運んでもらえるような、集客性のある商業施設を誘致するよといった提言をしている。
駐車場	土地が狭いから駐車台数を200台にするというのは、如何なものか？後で変更は出来ない。施設の利用価値を下げる心配がある。	大学の先生に必要台数を出してもらおうと、MAXピーク時で280台位という数字もある。台数を増やし駐車場を大きくしてしまうと、駐車場だけになってしまうので、図書館を造り、民間施設も造る中で公共用駐車場は200台で計画している。周辺の駅西駐車場、市役所の駐車場等の利用も考えている。
駐車場	駅前なので駐車場が通勤等に使われないか？	確か駅に近いので、通勤時に置いて行ってしまう心配はある。基本的に有料駐車場を想定しており、公共施設用の駐車場として利用されるので、他市の図書館も同様だが、例えば1～2時間の利用分については、無料にする等の方式を考えている。料金設定等は今後の課題であるが、まずは不法な使われ方をしないための考え方を持っている。
事業費	現在の図書館の年間維持費はどのくらいか？	年間予算ベースで、人件費を含めて2億6千万円、その内、空調を含めた維持管理費は2千5百万円程である。
事業費	施設の年間の維持費は？	運営費を除く年間の維持管理費は、現時点の概算として図書情報館では9千万円から1億円をモデルプランの中では試算している。

中心市街地拠点整備事業計画(案)説明会 主な質疑内容(抜粋)

項 目	質 問 内 容	市 の 回 答
事業費	初期投資の49億円には、蔵書、コンテンツ等の費用をどの様に見込んでいるか？	49億円の初期投資の内訳的には、家具や什器類を含むハード部分に関わる費用を見込んでいるが、資料購入費的なものは一切含まれていない。
図書館	35万冊想定が45万冊に達し溢れたので、図書館を新設するというのは短絡的ではないか？まず要るものと要らないものの整理が必要。	<p>現図書館は35万冊の収容能力に対して、現在44万冊近く詰め込んでいる状況だが、当然、除籍の方も整理しながら進めている。除籍基準というものを設けて、整理した本は、リサイクルフェアを年に2回程度の実施し、市民に無料で提供している。また、他市でも本がたまる状況は同じで、愛知県の方から「ラストワンプロジェクト」ということで、県内の図書館共同で分担して効率よく本を保管する試みも実施している。</p> <p>現在の中央図書館の敷地は4000㎡弱で、三方道路に囲まれて、東側は追田悪水が流れていて、増築は不可能な状態。新しい図書情報館は面積が大きくなるので、今まで図書館を利用していなかった方にも魅力を発信し、様々な事業展開を計画する。</p> <p>図書情報館の計画面積7000㎡の根拠は、日本図書館協会から、公立図書館の任務と目標として、図書館システム整備のための数値基準が示されており、人口18万人の自治体の公立図書館における基準値では、延べ床面積6,783㎡という数値が出ている。</p>
図書館	書籍の電子化により、本は増えないはず。取捨選択して電子化を進めれば減っていかないとおかしい。	電子書籍が発刊され、今後も増えることは承知しているが、公共図書館向けの電子書籍については、まだまだ、コンテンツ数が少なく、4千～6千位、多くても1万位が現状である。他にも多くの電子書籍は確かに出ているが、その7割～8割近くは漫画本。公共図書館向けの電子書籍は念頭に置いているのでご理解頂きたい。
図書館	本は静かな環境で読みたい。賑わいと関係はどの様考えているか？	事業計画(案)の概要版には、情報拠点施設のイメージ図を載せてあるが、下層の方には交流・多目的スペースや飲食の出来る賑わいのスペースが有り、2層目には子育てや児童コーナーが有り、静かに読書したいという方には、階を上に行くほど静かなスペースを確保する。閲覧席についても、現図書館では学習室を含めた合計で312席に対し、新図書館では670席計画し、静かに読んでいただくスペースも充分設ける。
現在の図書館	現在の中央図書館はどうなるのか？	<p>現在の図書館は築27年位だが、耐震性の問題もないので、目的を少し変える部分もあるが、そのまま使用を考えている。使い方としては、まず、2階の奥の閉架書庫は、閲覧する頻度は極めて低いものが多いが、大切に収蔵する必要がある書物を、引き続き収蔵する。</p> <p>また、各地区公民館には図書コーナーを設けているが、昭林公民館は中央図書館の隣のため、図書コーナーが無く、今後、図書館が移転するため、穴埋めする意味で、図書館の一部スペースを昭林公民館の地域の図書コーナーとして残したいと考えている。</p> <p>それでも相当な床面積が空くので、今から市議会とも相談し、地域のご理解を頂かないといけないが、人口増加に伴い、公共施設が不足している分野に活用していきたい。建物は壊さずに、用途を変える部分もあるが、全体はそのまま活用していきたいと考えている。</p>

中心市街地拠点整備事業計画(案)説明会 主な質疑内容(抜粋)

項 目	質 問 内 容	市 の 回 答
来館者	地域の活性化、地域を周遊し商店街にも足を運んでもらえるアイテムが不足している。	図書館は非常に集客力のある公共施設であるが、地域の活性化には、この拠点施設だけを造っても周辺へ人はあまり流れない。まちづくり会社も発足したので、そういう街の方達と一緒に、いろいろな企画・イベント、現在でも実施している広場の産直市等を企画し、拠点に来た方に情報提供し、街に出てみよう、或いは南吉のまちづくりでここを少し歩いてみよう、ここを周遊してみよう、そういう仕掛けもここを中心に発信できたら良いと思う。周辺の皆さんに協力いただきながら、街をもう一度盛り返していきたい。
アクセス	拠点施設の近接に、あんくるバスの停留所があると良い。	あんくるバスは、現在も周辺まで来ている。周辺にもバス停が有るので、拠点施設として機能する時には、バス停の位置を再検討させてもらい、皆さんに使い易い施設を考えていく。
その他	駅を含めた広域的な開発計画は示せないか？長期的な整備計画と、拠点施設の位置付けを全体の計画に折り込めないか？	理想的には、駅前の土地区画整理事業で既に整備した区域を含めて一体的に拠点整備することが、全体的には理想的な形になると思うが、更生病院が移転して10年が経ち、中心市街地の活性化は緊急の課題である。早くこの場所で皆さんの期待に沿うような施設をまず造る。周辺のまちづくりに関しても止まっている訳ではなく、そういうことも将来の課題としては認識している。まだ具体的には、なかなか難しいということでご理解頂きたい。
その他	民間施設が商店街を圧迫してはいけない。	確かに拠点施設に魅力的な飲食・物販を揃えてしまうと、駅前の商店に人が流れないという懸念もあるが、魅力的なモノで、人が来てくれる理由を作ることも必要。その後は周辺の商店の方達にも、この機会に人がこちらから動くような、取り組みを一緒に進めていく。この拠点施設が周辺の皆さんの情報発信の基地にもなれば、少しずつ拠点施設の外へ出て行ってくれるのではないかと。だから、相乗効果的にそういうものが必要になるのではないかと。ということで、民間施設も考えている。
その他	誰もが利用出来る、恩恵を受けられる施設整備にしてもらいたい。	今度、建設する図書館には中心市街地から離れた地域の皆さんにも是非来てほしいが、この図書館が良くなっただけでは、近い人達は恵まれて、遠い人は恵まれないということになる。この図書館の計画は進めさせてもらいますが、地区公民館の図書コーナーを、連動させる形で充実していきたいと考えている。図書館に行かないと、電子関係の情報が得られないのではなく、公民館の図書コーナーでも、ある程度の情報は収集出来るように、電子端末の充実も図る整備も今後併せて進めて行きたいと考えている。

中心市街地拠点整備事業計画(案)説明会 主な質疑内容(抜粋)

項 目	質 問 内 容	市 の 回 答
その他	<p>周辺商店街と離れた地域とでは、施設整備により得る効果に差が出る。税金の使い道として市民一人当たりの負担額が同じでは納得できない。</p> <p>安城駅周辺の活性化は結構だが、三河安城駅周辺の取り組みは行われているのか？行っているならば、どの程度進んでいるのか？</p>	<p>更生病院の移転に対して、市は移転建設の補助金を出して移転促進をした。あの地域に空き地が出来た事に対しては、市も何らかの責任を負うべきと考えている。中心市街地の状況は、更生病院の郊外移転により、界限店舗が閉店したあとに、風俗店が増え雰囲気や治安が悪くなってきている。その対策として街の活力を取り戻すため、周辺の区画整理と抱き合わせの中心市街地拠点整備事業に至った。</p> <p>三河安城駅の新幹線駅は120億円近く、周囲区画整理においても300億円近い税金の投入により整備しており、一定の活力が生まれている。その他、北部、作野、桜井等も同様である。</p> <p>一方、末広・花ノ木地区は戦前以来の老朽家屋が密集する、危険な地域であり、長く都市計画税を払いながら、恩恵を受けられずにいた地区である。一番整備が遅れている地域で、区画整理を行い、合わせて活力のシンボルであり、生涯学習の拠点である図書館を恒久施設として建設していくことをご理解頂きたい。</p>